

平成 1 5 年度～ 1 9 年度内航適正船腹量について（答申案）

目 次

1．適正船腹量策定の対象船舶

2．適正船腹量の算定方法

- ・ 主要品目別需要等の見通し（案）
- ・ 海送比率の見通し（案）
- ・ 船種別輸送量の見通し（案）
- ・ 船種別輸送原単位の見通し（案）

3．平成15年度～19年度内航適正船腹量（答申案）

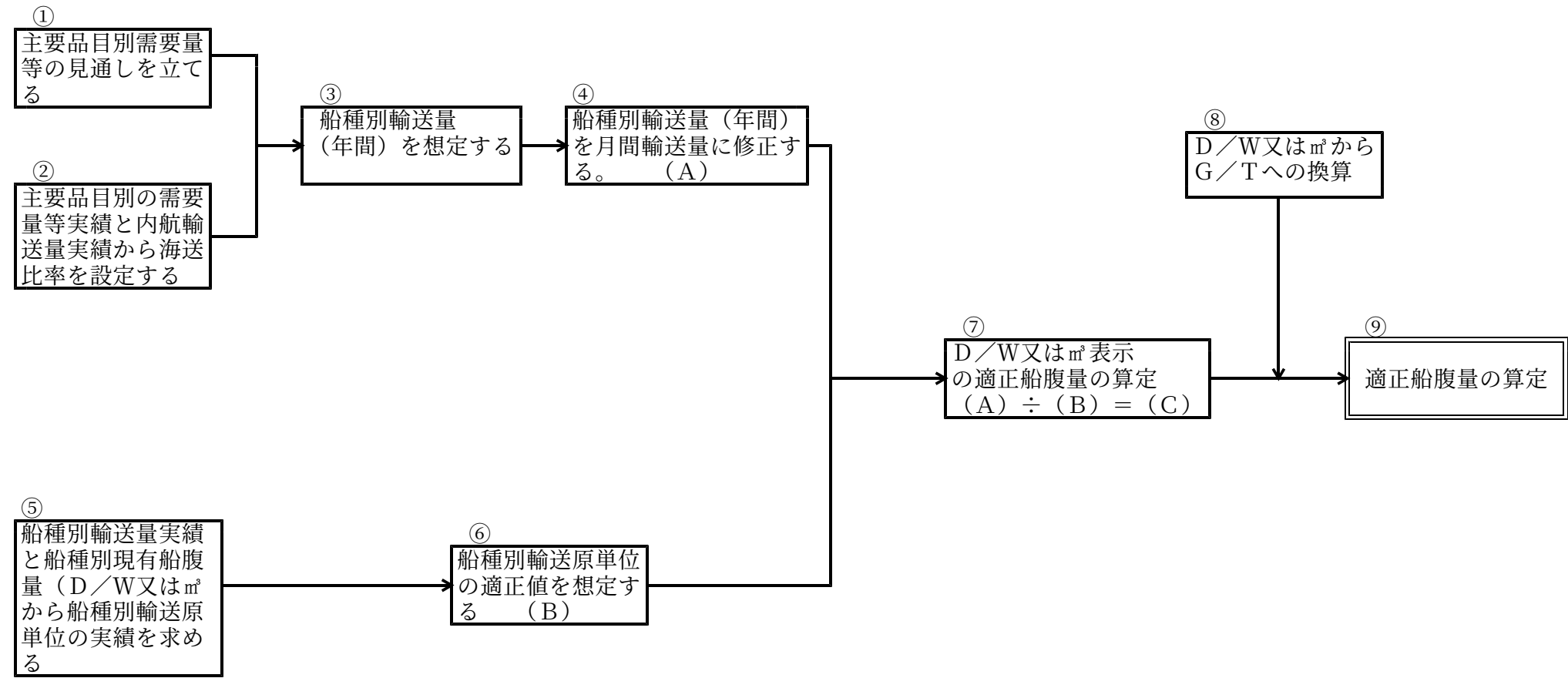
適正船腹量の策定について

1. 適正船腹量策定の対象船舶

適正船腹量は、次の船種について定めることになっている。（内航海運業法施行規則第1条の2第1項）

- ① 貨物船（昭和39年度より策定）
- ② セメント専用船（セメントの運送に適した構造を有する貨物船）（昭和40年度より策定）
- ③ 自動車専用船（自動車の運送に適した構造を有する貨物船）（昭和52年度より策定）
- ④ 土・砂利・石材専用船（土、砂利（砂及び玉石を含む。）又は石材の運送に適した構造を有する貨物船）（昭和62年度より策定）
- ⑤ 油送船（昭和39年度より策定）
- ⑥ 特殊タンク船（高圧若しくは腐しよくに耐え、又は温度を一定に保つ特殊な構造の液体貨物用タンクを有する貨物船）（昭和41年度より策定）

2. 適正船腹量の算定方法



・主要品目別需要量等の見通し（案）・・・①

項 目	実 績			推 計					需 要 量 等 の 予 測
	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	
粗鋼国内需要量 （百万トン）	81.7	71.8	74.6	75.0	74.0	73.0	72.1	71.2	平成15年度については、業界団体のヒアリング等から0.5%増と推計。16年度以降は1.3%ずつ減と推計。（注1）
石灰石国内生産量 （百万トン）	181.8	174.5	168.1	166.3	165.4	165.4	165.4	165.4	平成15年度については、業界団体のヒアリング等から1.1%減と推計。平成16年度は15年度の0.5%減で16年度以降は横ばいと推計。（注1）
セメント国内需要量 （百万トン）	71.4	67.8	63.5	61.0	61.0	61.0	61.0	61.0	平成15年度については、「主要建設資材月報需要予測」（国土交通省）に基づき3.9%減と推計。平成16年度以降は横ばいと推計。
自動車国内出荷台数 （百万台）	5.7	5.6	5.5	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	平成15年度以降については、業界団体のヒアリング等からほぼ横ばいと推計。
海上空港埋立土量 （百万立方メートル）	46.3	108.0	98.9	57.4	42.0	18.0	16.0	12.0	平成15年度以降については、海上空港埋立計画等から推計。
砂利・砂・石材需要量 （百万トン）	572.6	543.6	509.1 (実績見込)	489.1	489.1	489.1	489.1	489.1	平成15年度については、セメント国内需要見通し等を踏まえ3.9%減と推計。16年度以降は横ばいと推計。
石油国内需要量 （百万キロリットル）	266.3	253.6	261.8	251.1	245.2	242.2	240.4	239.2	平成15年度については「平成15年度～19年度石油製品需要見通し」（資源エネルギー庁）等に基づき減(4.1%)と推計。平成16年度以降も同計画等に基づき推計。（注2）
黒油	75.9	66.5	70.4	63.5	59.6	58.1	57.3	57.1	
白油	190.4	187.1	191.4	187.6	185.6	184.1	183.1	182.1	

- 注1．貨物船で輸送される品目には、鉄鋼、石灰石の他に穀物、石炭製品等があるが、これらについては、GDPとの相関性の高い物質（穀物、農産品等）と低い物質（石炭、金属等）とに分類を行い、高いものについてはGDP予測から推計を行い、低いものについては横ばいとして推計。
- 2．油送船で輸送される品目には、ケミカル等があるが、これらについては、資源エネルギー庁による需要見通しがないので、内航タンカー組合からのヒアリングにより推計。
- 3．特殊タンク船については、内航タンカー組合のヒアリングにより推計。

・海送比率の見通し（案）・・・②

品 目		海 送 比 率（％）								海 送 比 率 の 予 測
		実 績			推 計					
		12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	
鉄 鋼		66.8	70.6	67.5	68.3	68.3	68.3	68.3	68.3	平成15年度については、近年の海送比率の推移等を踏まえ推計。平成16年度以降については横ばいと推計。
石 灰 石		32.5	33.0	32.9	32.8	32.8	32.8	32.8	32.8	平成15年度については、近年の海送比率の推移等を踏まえ推計。平成16年度以降については横ばいと推計。
セ メ ン ト		70.2	71.7	71.0	71.7	71.7	71.7	71.7	71.7	平成15年度以降については、臨海大型工場への生産シフト等から13年度の横這いと推計。
自 動 車		58.7	60.8	65.5	61.7	61.7	61.7	61.7	61.7	平成15年度については、近年の海送比率の推移等を踏まえ推計。平成16年度以降については横ばいと推計。
砂利・砂・石材		17.8	17.8	17.8 (実績見込)	17.8	17.8	17.8	17.8	17.8	平成15年度については、近年の海送比率の推移等を踏まえ推計。平成16年度以降については横ばいと推計。
石 油	黒 油	90.4	90.3	83.9	88.2	88.2	88.2	88.2	88.2	平成15年度については、近年の海送比率の推移等を踏まえ推計。平成16年度以降については横ばいと推計。
	白 油	51.9	53.2	50.7	51.9	51.9	51.9	51.9	51.9	平成15年度については、近年の海送比率の推移等を踏まえ推計。平成16年度以降については横ばいと推計。

・船種別輸送量の見通し（案）・・・③

船種	品目	実績			推計				
		12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
貨物船 （百万トン）	鉄鋼	54.6	50.7	50.3	51.2	50.6	49.9	49.2	48.6
	石灰石	59.1	57.6	55.3	54.6	54.3	54.3	54.3	54.3
	その他貨物（注1）	109.4	103.7	101.1	101.1	101.1	101.7	102.4	103.0
	小計	223.0	211.9	206.7	207.7	206.8	206.8	206.8	206.9
セメント専用船 （百万トン）	セメント	49.3	47.9	44.5	43.0	43.0	43.0	43.0	43.0
自動車専用船 （百万トン）	自動車	4.0	4.1	4.4	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2
土・砂利・石材 専用船 （百万トン）	土・砂利・石材	133.5	145.1	140.1 （実績見込）	174.8	153.6	117.7	114.0	108.0
油送船 （百万キロリットル）	黒油	68.6	60.0	59.1	56.0	52.6	51.2	50.6	50.3
	白油	98.9	99.6	97.0	97.4	96.3	95.6	95.0	94.5
	その他（注2）	20.3	19.1	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0
	小計	187.8	178.7	173.1	170.4	165.9	163.8	162.6	161.8
特殊タンク船 （百万トン）	高圧ガス等	25.7	23.3	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6	22.6

注1．貨物船の「その他貨物」とは、鉄鋼・石灰石を除いた穀物、石炭製品等である。

2．油送船の「その他」とは、油脂、ケミカルである。

・船種別輸送原単位の見通し（案）・・・⑤、⑥

船 種	原 単 位								原 単 位 の 予 測
	実 績			推 計					
	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	
貨 物 船	6.73	6.25	6.60	6.74	6.75	6.76	6.77	6.78	過去の輸送原単位の実績等を踏まえて、平成15年度については推計。平成16年度以降については、漸増傾向と推計。
セメント専用船	6.20	5.92	5.56	5.86	5.86	5.86	5.86	5.86	過去の輸送原単位の実績等を踏まえて、平成15年度については推計。平成16年度以降については、横ばいと推計。
自動車専用船	2.58	2.77	3.03	3.03	3.03	3.03	3.03	3.03	過去の輸送原単位の実績等を踏まえて、平成15年度については推計。平成16年度以降については、横ばいと推計。
土・砂利・石材 専用船	12.51	10.30	8.99 (実績見込)	13.69	13.67	13.49	13.41	13.33	過去の輸送原単位の実績等を踏まえて、平成15年度については推計。平成16年度以降については、減少と推計。
油 送 船	9.20	9.01	9.78	10.08	10.08	10.08	10.08	10.08	過去の輸送原単位の実績等を踏まえて、平成15年度については推計。平成16年度以降については、横ばい。
特殊タンク船	6.13	5.55	5.96	6.26	6.26	6.26	6.26	6.26	過去の輸送原単位の実績等を踏まえて、平成15年度については推計。平成16年度以降については、横ばいと推計。

3. 平成15年度～19年度内航適正船腹量（案）

船 種	現 有 船 腹 量 (H15. 9. 30)	適 正 船 腹 量				
		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
貨 物 船	1, 568千G/T	1, 582 (▲14)	1, 572 (▲4)	1, 570 (▲2)	1, 567 (1)	1, 565 (3)
	2, 609千D/W	2, 632 (▲23)	2, 616 (▲7)	2, 612 (▲3)	2, 608 (1)	2, 604 (5)
セメント専用船	431千G/T	399 (32)	399 (32)	399 (32)	399 (32)	399 (32)
	698千D/W	646 (52)	646 (52)	646 (52)	646 (52)	646 (52)
自動車専用船	141千G/T	149 (▲8)	149 (▲8)	149 (▲8)	149 (▲8)	149 (▲8)
	114千D/W	120 (▲6)	120 (▲6)	120 (▲6)	120 (▲6)	120 (▲6)
土・砂利・石材 専用船	640千G/T	627 (13)	551 (89)	428 (212)	417 (223)	398 (242)
	1, 179千D/W	1, 152 (27)	1, 014 (165)	787 (392)	767 (412)	731 (448)
油 送 船	732千G/T	692 (40)	674 (58)	665 (67)	660 (72)	657 (75)
	1, 586千 m³	1, 499 (87)	1, 460 (126)	1, 441 (145)	1, 430 (156)	1, 424 (162)
特殊タンク船	205千G/T	200 (5)	200 (5)	200 (5)	200 (5)	200 (5)
	317千D/W	309 (8)	309 (8)	309 (8)	309 (8)	309 (8)
小 計 (土・砂利・石材 専用船を除く)	3, 077千G/T	3, 007 (70)	2, 982 (95)	2, 970 (107)	2, 963 (114)	2, 958 (119)
	5, 324千 D/W 千 m³	5, 182 (142)	5, 132 (192)	5, 109 (215)	5, 094 (230)	5, 084 (240)

注1. () 内は現有船腹量に対する船腹過剰量である。

2. 適正船腹量の策定にあたっては、季節別輸送量の変動を考慮して、月間海送量が4番目に高い月（4番月）を採用している。

3. 適正船腹量の策定は、中長期的な需要予測に基づくものであり、短期的な増加分については考慮していない。

4. 土・砂利・石材専用船については、平成15年度以降、関空2期工事・中部国際空港等の埋立工事がピークを過ぎることから、計算上、大幅な船腹過剰が予想されている。しかし、現実には現有船腹量のうち、総トンの33% (212千G/T)、載貨重量トンの29% (344千D/W)は自家用船舶の臨時投入であり、工事終了と共にこれらが撤退することから、極端な船腹過剰は発生しないものと考えられる。